

参考年表

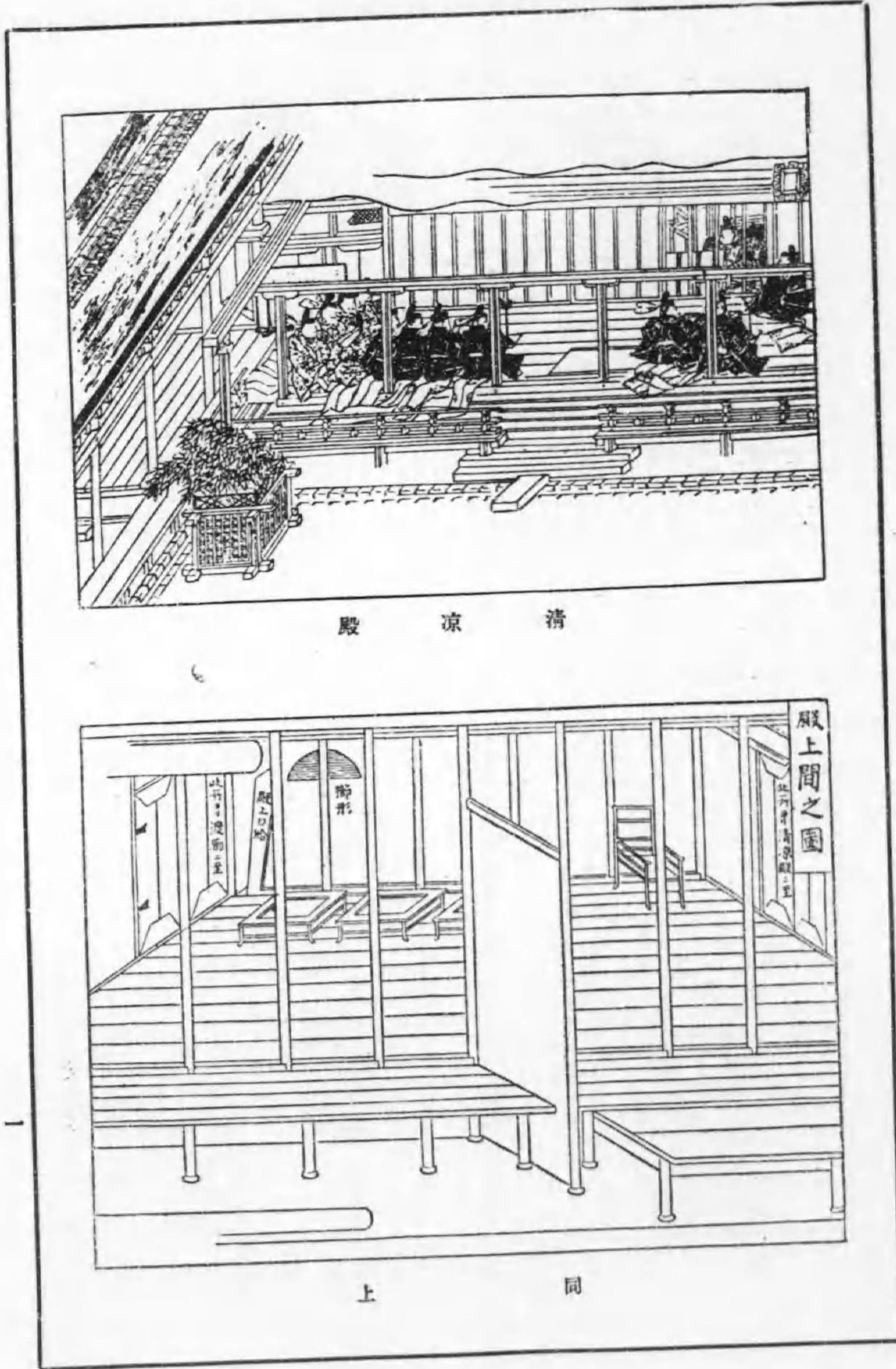
太宰権帥藤原伊周等、配所に赴かず。中宮、御落飾○四日、太宰権帥、藤原伊周等配所に赴く○廿一日伊周等の左遷を山陵に告ぐ
 ○十月十日これより先、太宰権帥藤原伊周、密に播磨より入京す。(母貴子の危篤によりてなり)この日之本府に逐はしむ○この
 月正三位高階貴子薨す(定子の母)○十二月十六日、皇女脩子御誕生(御母定子)
 三 四月五日太宰権帥藤原伊周、出雲權守藤原隆家の罪を赦す○十一月十四日皇女脩子を内親王となす。
 四 七月従二位高階成忠(貴子の父)薨す。
 長保 二月、左大臣道長の室源倫子及び女彰子を並に従三位に叙す○十一月一日左大臣道長の女、従三位彰子入内す○同月三日左大臣道
 長の室、従三位倫子に輦車をゆるす○同月七日皇子敦康御誕生(御母定子)この日従三位彰子を女御となす。
 二 二月十日、女御彰子に立后宣旨を賜ふ○同月十一日、中宮定子内裏に入御○この日、皇子敦康に牛車を聽さる○同十八日、皇子敦
 康百日の御儀あり○同廿五日、中宮定子を皇后となし、女御彰子を中宮となす○三月十六日、右大辨藤原行成に命じ、その手跡を
 進献せしめらる○四月十七日、皇子敦康を親王となす○七月廿三日中宮(彰子)左大臣道長の第より、權亮則忠の第に移御○八月八
 日皇后(定子)内裏に入御○同廿日女御元子を従三位に叙し、藤原尊子を女御となす○廿七日皇后本宮に還御○廿九日女御義子を従
 三位に叙す○十二月十五日皇女媯子御誕生(御母定子)皇后定子崩御。
 三 正月十日、左大臣道長の室(倫子)母(稔子)の七十の算を賀す○十一月敦康親王着袴の儀あり。
 四 八月三日東宮女御、原子(淑景舎)俄に卒す(鼻口より出血)○十二月廿七日媯子内親王着袴。
 五 寛弘 三月廿七日、敦康親王參觀あらせらる○この日、脩子内親王を三品に叙す。
 二 十二月三日、脩子内親王廣隆寺に詣づ。
 三 正月廿日、脩子内親王を一品に叙す。○同廿六日、脩子内親王の叙品によりて、公卿等、慶賀す。
 四 五月廿五日、媯子内親王薨す(九歳)○九月十一日、皇子敦成誕生(御母彰子、廿一歳)○十月十六日、上東門第に行幸。この日、
 敦成を親王となし、道長の室、倫子を従一位に叙す。
 五 正月三日、中宮及び敦成親王を呪咀する厭符露現す○三月廿日、前太宰権帥藤原伊周の朝參を停め、民部大輔源方理等を除名す○

三月一日、敦康親王御誕生あり○六月十九日、藤原伊周に朝參、及び帶劔を聽さる○十一月廿五日、皇子敦良誕生(御母彰子廿二歳)
 七 正月廿九日、前太宰権帥、正二位藤原伊周薨す。
 八 六月十三日、御讓位。同日御受禪(三條天皇)。敦成親王を立て、皇太子となす。坊官除目あり○十四日、一條上皇に太上天皇の尊
 號を上らる○十九日、一條天皇御落飾○二十日、一條法皇御崩重らる。○廿一日、一條法皇崩御。○七月八日、一條法皇御葬送、
 (中宮彰子)かげだにも、とまらざりける雲の上を、玉のうてなと誰か言ひけん)
 長和 二月十四日、先帝の中宮彰子を皇太后となし、女御妍子を皇后となし、大納言道綱に中宮大夫を兼ねしむ○四月十五日、道長の無
 禮を怒り給ひ、事を右衛門督藤原懷平に謀り給ふ。
 二 七月六日皇女禎子御誕生(御母、道長女、妍子)○十月廿二日、皇女禎子を内親王となす。
 三 二月十五日、大納言實資、道長の非行を慨す。内裏、火災に依りて奸盜あり○二十日、大納言實資の家に怪あり。
 四 四月廿二日、御眼疾に依りて密敕あり。是日、太宰権帥藤原隆家、赴任に依りて加階す○十月十七日御眼疾御新、御修法、結願。
 五 正月廿九日、御讓位○廿九日御受禪(後一條天皇)この日、式部卿敦明親王を皇太子となす。
 寛仁 三月十六日、攝政道長を罷め、内大臣頼通を攝政となす。是日、道長を従一位に叙す。五月九日、三條法皇崩御○八月九日、敦良
 親王(御母彰子)皇太弟となり、東宮敦明親王辭位(三條天皇の皇子)。
 二 正月七日、白馬御會。この日、皇太后彰子を太皇太后となす○四月廿八日、道長の女、威子、女御となる○十二月十七日式部卿敦
 康親王薨す(二十歳)。

三月廿一日道長出家す○廿七日、刀伊賊入寇○四月廿五日、太宰府、刀伊賊合戦の解文を上る。
 三 三月廿二日、道長、無量壽院を供養す。太皇太后(彰子)皇太后(妍子)中宮(威子)行啓あらせらる。
 治安 三 二 一
 万壽

参考年表

一 部の舎殿



清涼殿

殿上間之圖

上 同

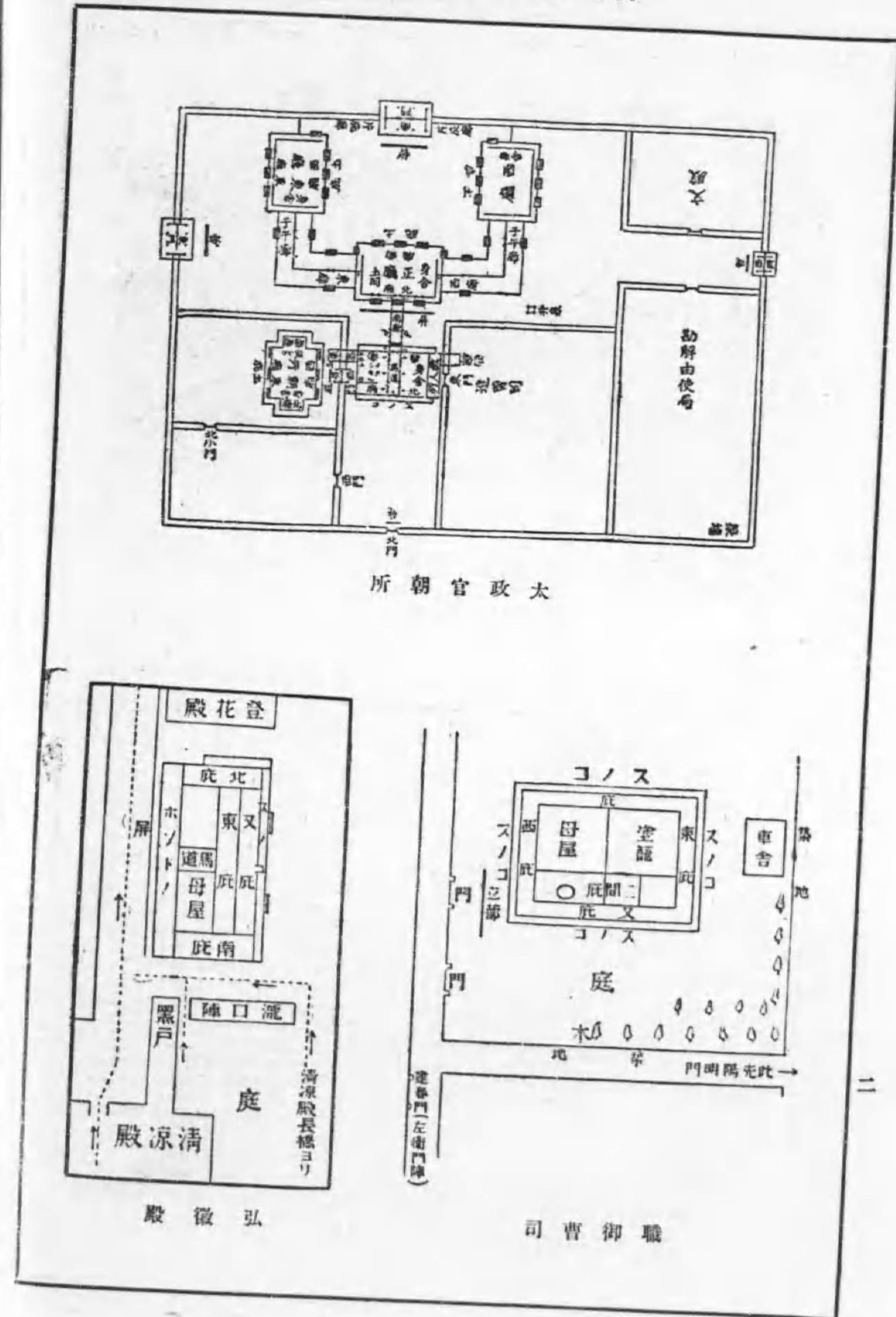
参考年表

- 二 八月四日、東宮(後朱雀)の皇子、親仁御誕生(御母、道長女、嬪子)○五日東宮妃尙侍、藤原嬪子薨す。この夜、陰陽師等、故東宮妃魂喚の法を修す。
- 三 正月十九日大皇太后宮彰子御出家、この日、院號を上東門院と爲す。
- 四 十二月四日、入道前太政大臣藤原道長薨す(六十二歳)○同日、權大納言正二位藤原行成薨す(五十六歳)
- 長元 十一月廿一日、中宮(威子)、母儀倫子の七十賀を行ふ○廿八日關白賴通、母儀倫子の七十賀を高陽院に行ふ。上東門院及、中宮臨御。
- この間十一年、草紙に關する事故なし。但し長元八年三月廿三日、大納言兼民部卿藤原齊信薨す。
- 長久 二月廿一日、一品脩子内親王、御落飾。同日參内あらせらる(四十六歳)○五月、脩子内親王の御所にて歌合あり(千載和歌集に出づ)
- 三 二月七日、脩子内親王薨す(五十四歳)廢朝三日。
- 永承 二 正月一日、藤原隆家薨す。
- 寬德 四 三

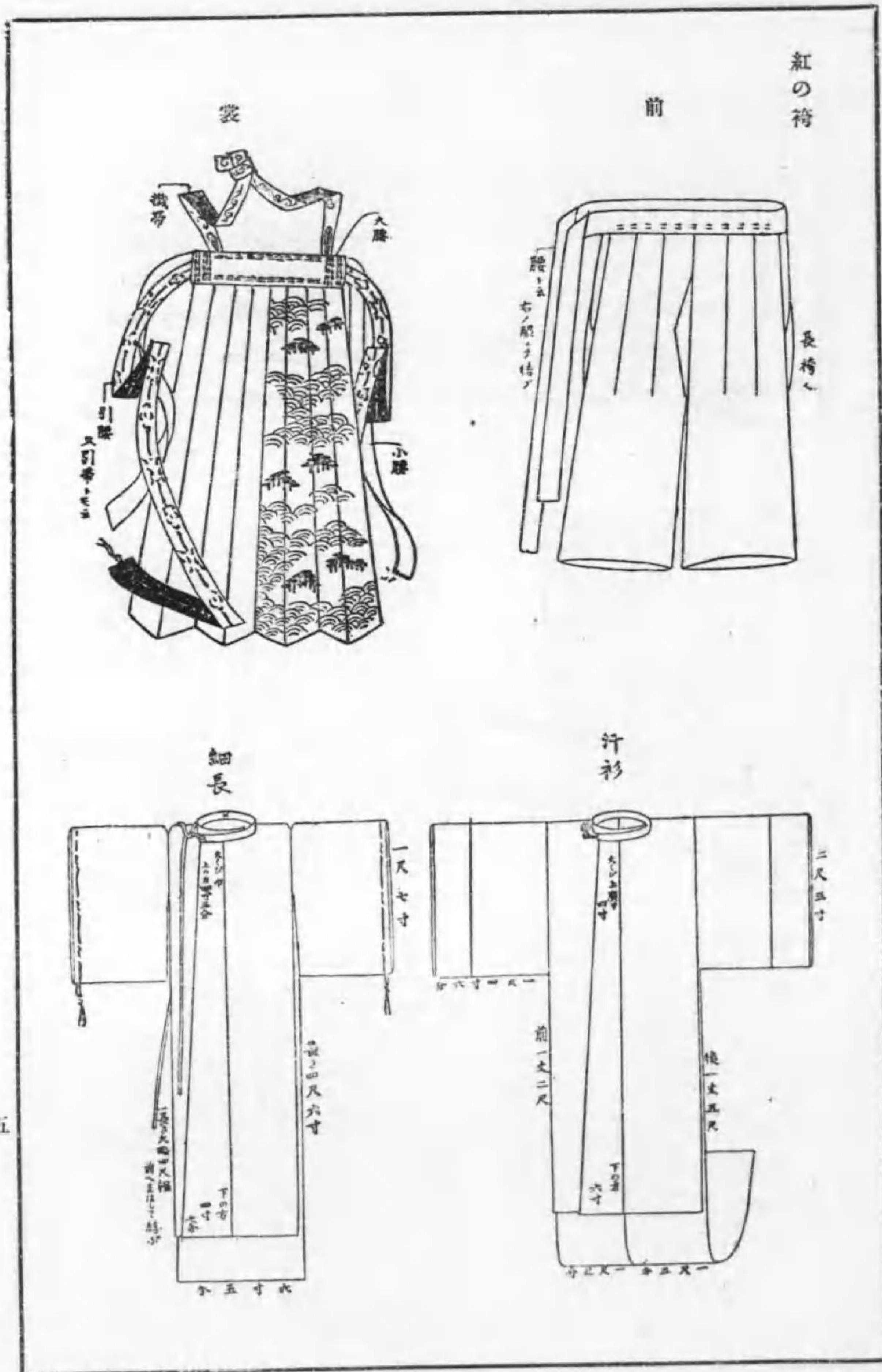
一 部の飾服



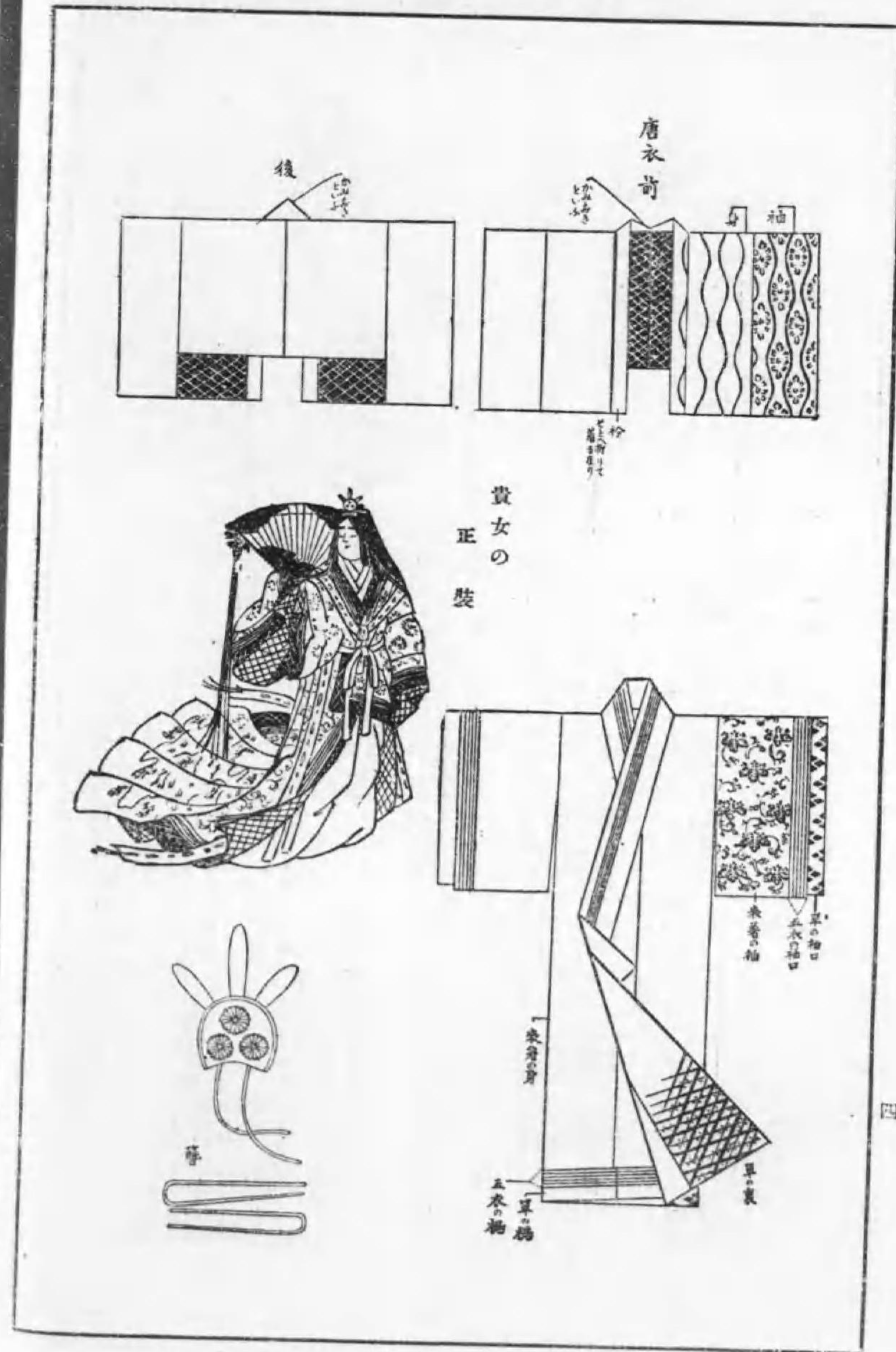
二 部の舎殿



三部の飾服



二部の飾服



一 部の 雜



獅子

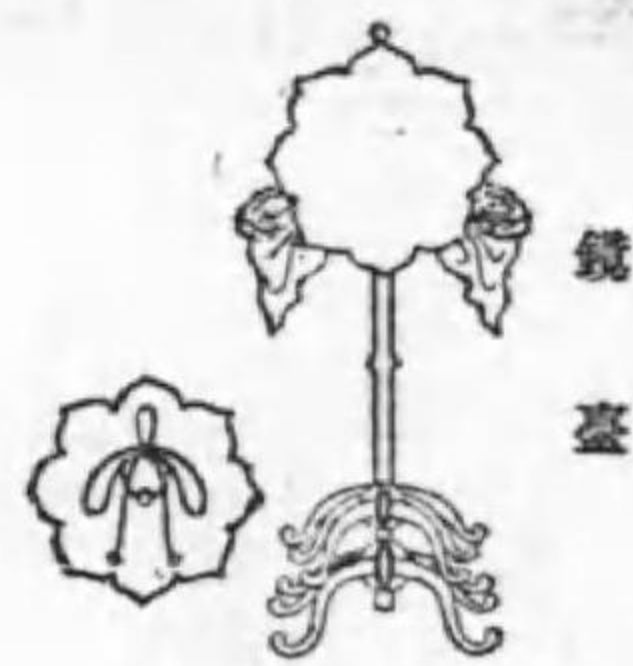
狛犬



帳几の夏の尺四



毬 卯



鏡 臺

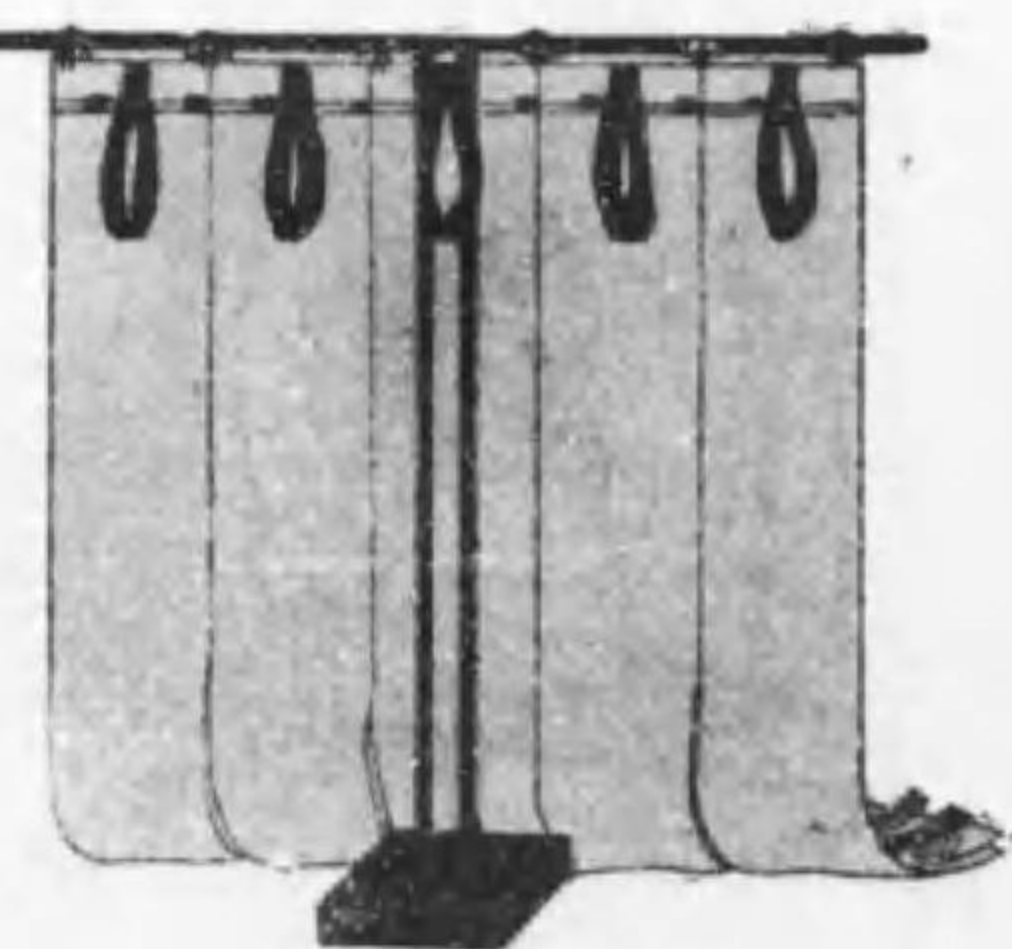


鏡

玉 藥



冬 司



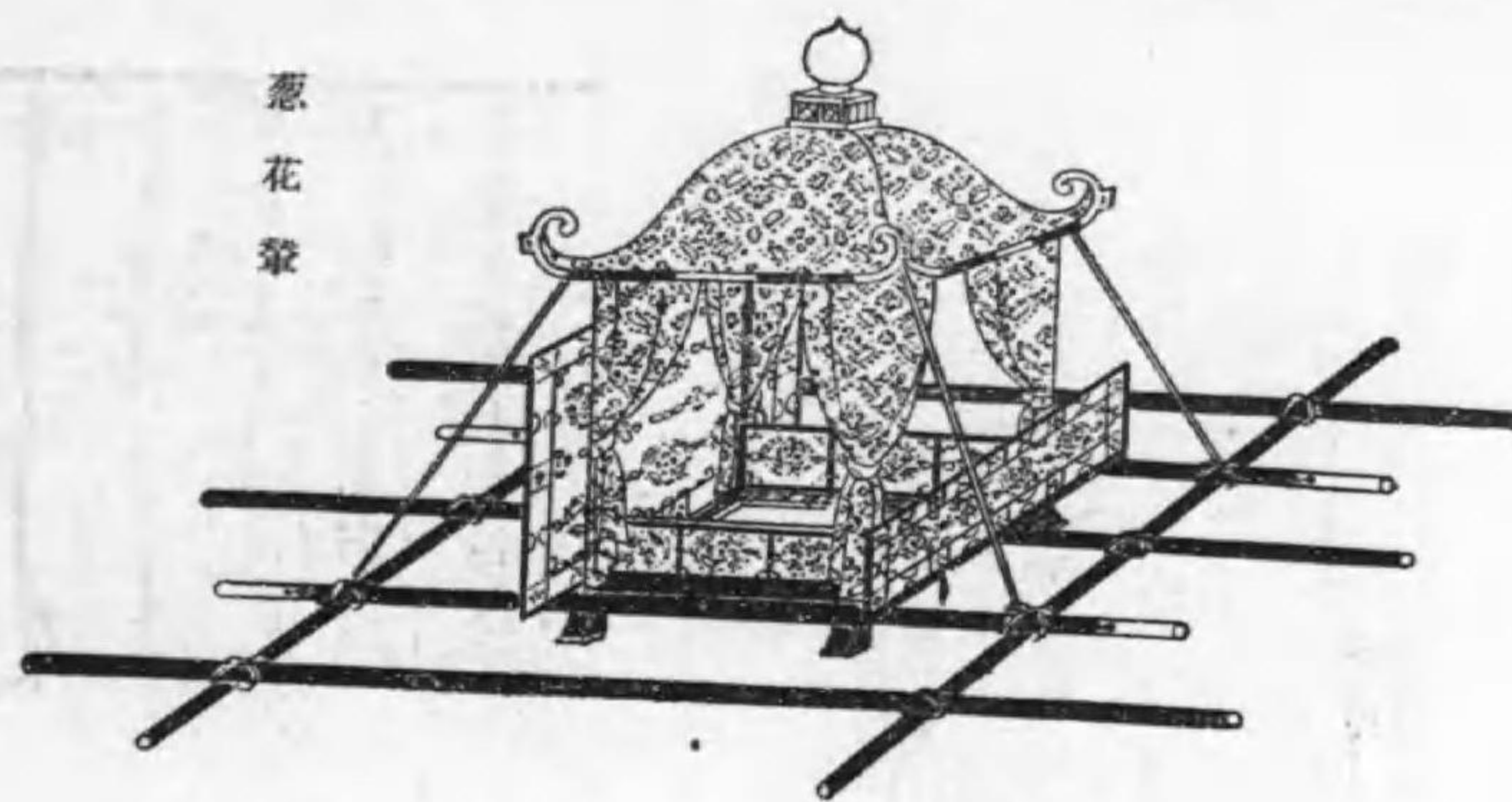
裏 同



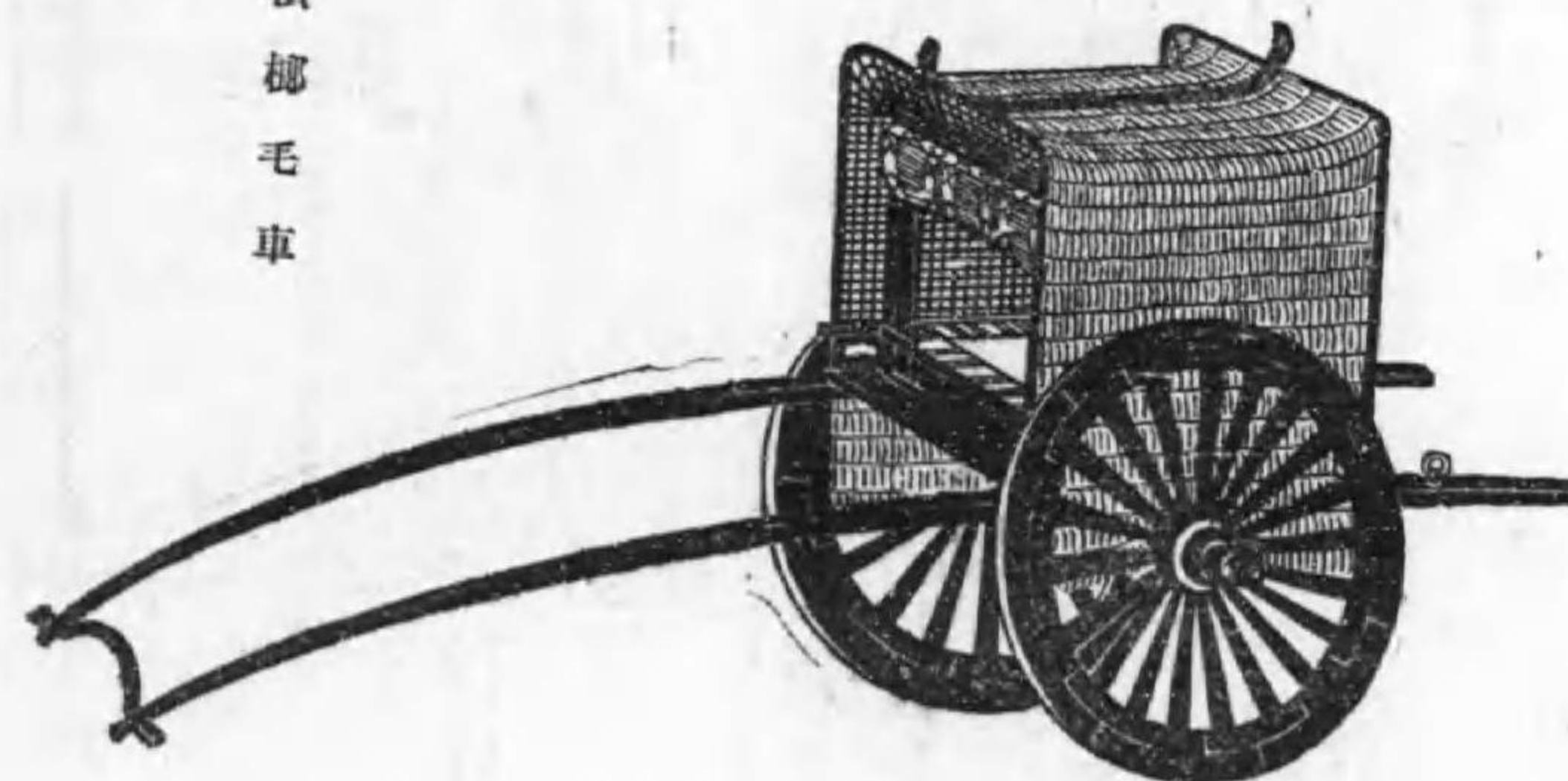
屏 幛

床 胡

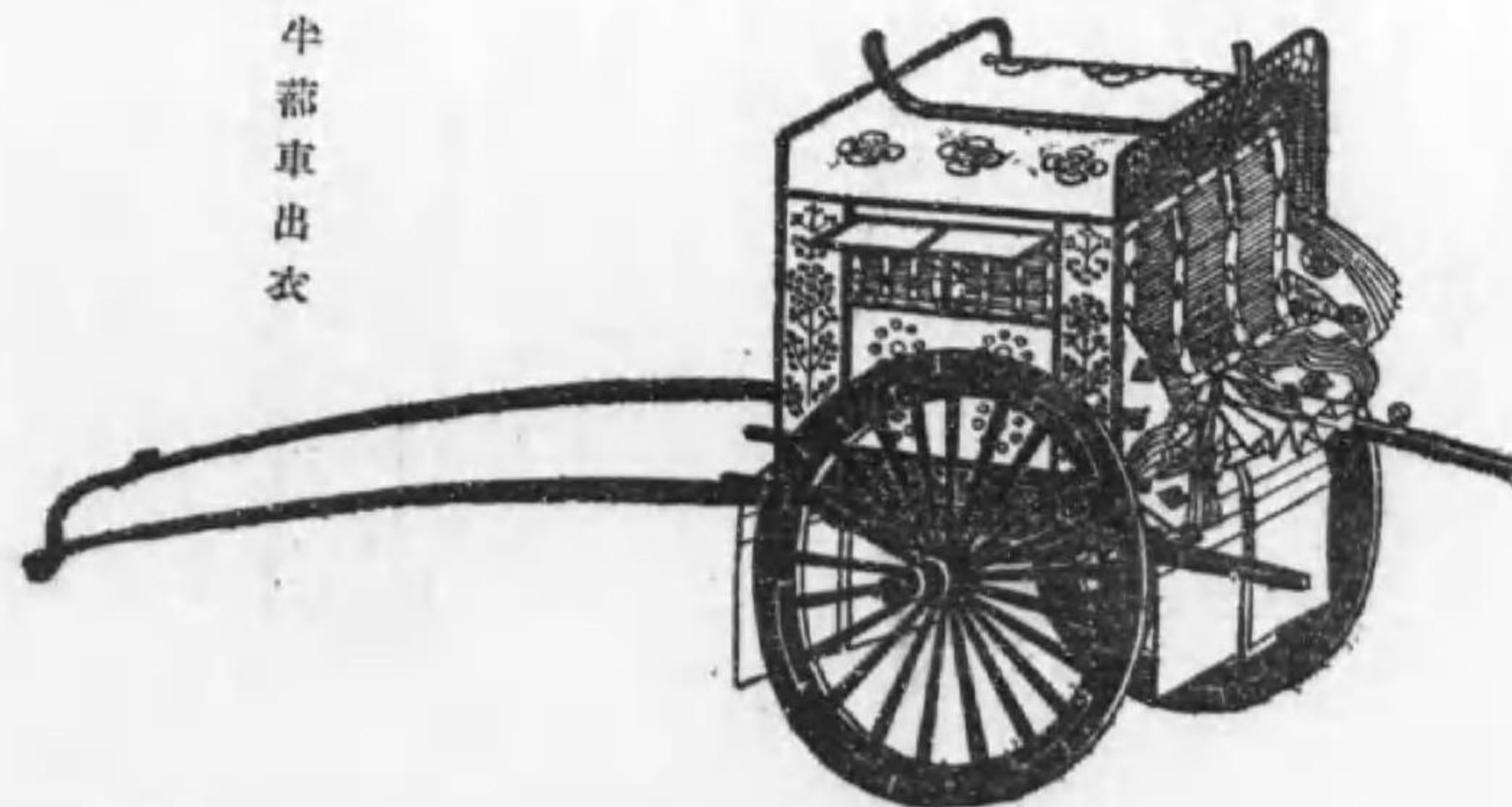
部 の 車 輿



葱 花 輦



檳 榔 毛 車



牛 蒡 車 出 衣

三部の雑



音觀輪忍如



京裝蓋



髪を引越したるさま



尊母佛



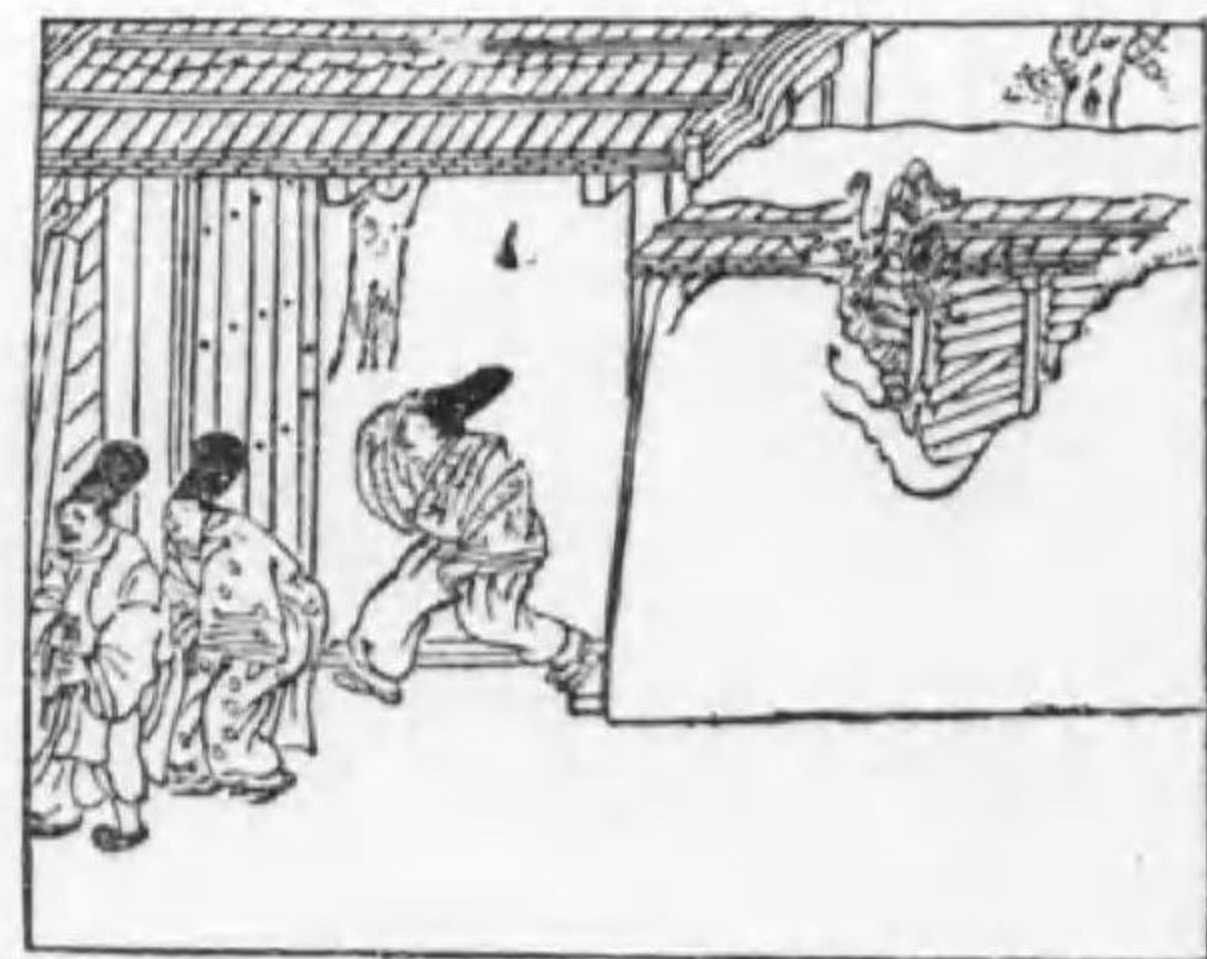
頭拔



王藏剛金

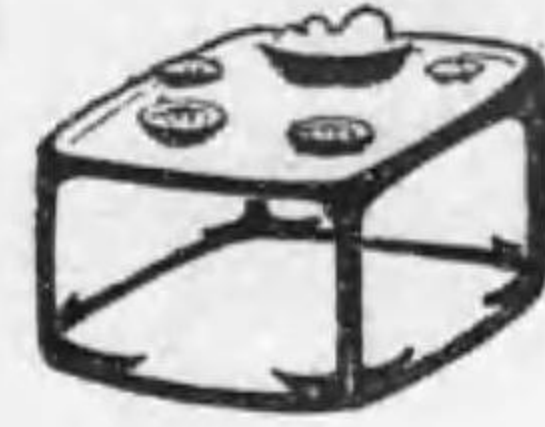


巻敷



築土の板

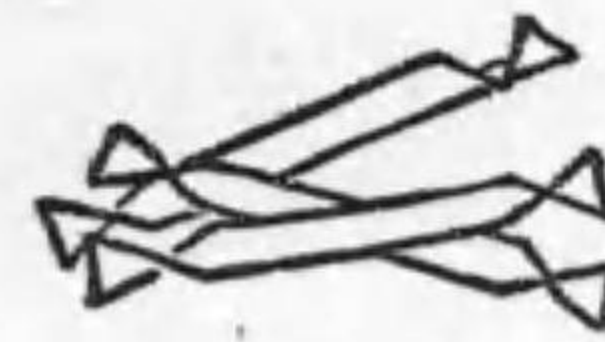
二部の雑



盤懸



算夾



文立

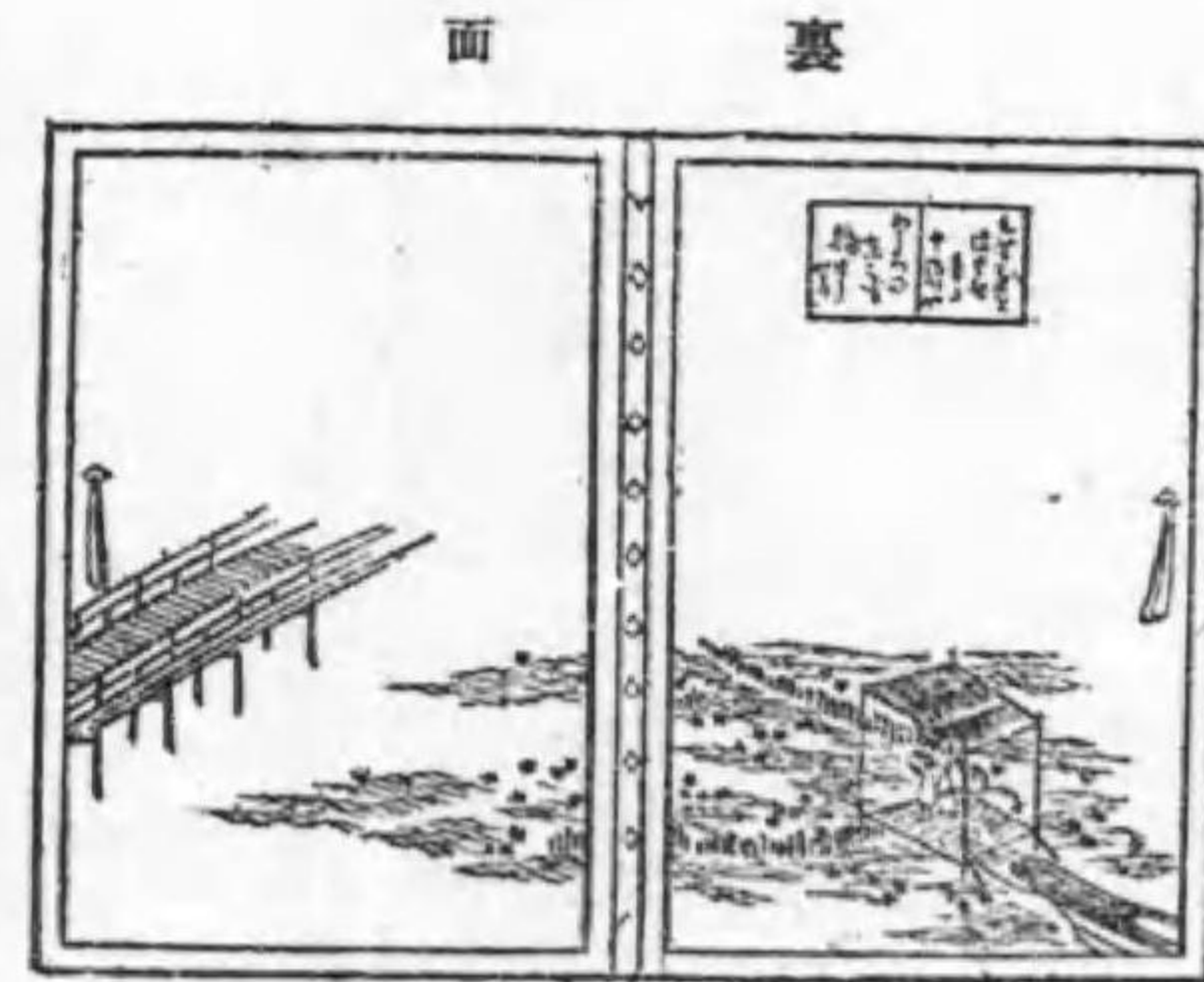


文結



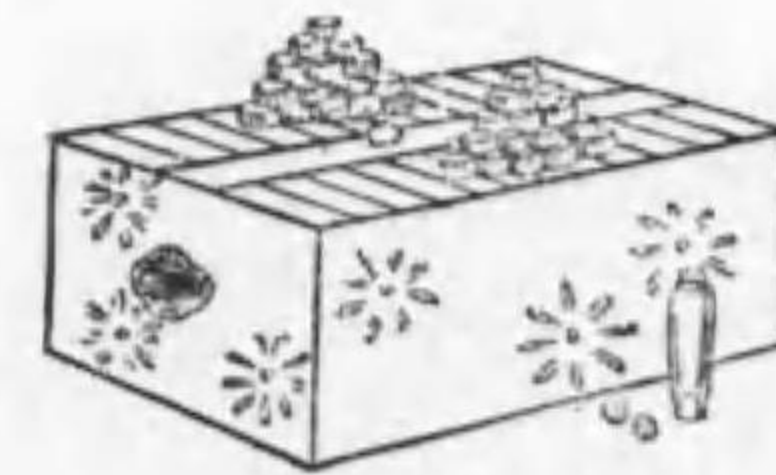
面表

荒海の障子



面裏

同上



六双

手紙、いふありけうらのあきよ
しうるれゆくすねさしおちふ
わよのけらやきしよひやこま
わさくはははくさあまのつり
むらりあさみやふいそくわ
むらりあさみやふいそくわ

昭和十年十二月十五日印刷
昭和十年十二月二十日發行

枕草紙
定價三圓五十錢

不許
複製

著者 小林 榮子
發行所 東京市小石川區大塚仲町四一
西見 茂
印刷所 東京市小石川區水田下町六二
生方 正男

上段印刷所印
小段製本所製本

發行所

東京・小石川・大塚仲町四一
電話 大塚 三六八八九番

言海書房

大阪毎日論説委員
硯瀧欄執筆
丸山幹治著
送料
〇・一八〇

徳富蘇峰氏評——本書は人物篇と世相篇とに二大別をしてゐる。何れも其の觀察の角度に獨自一己があり、其の言ひ現はし方に更により獨自一己がある。一寸讀んでは毒にもならず薬にもならぬ様だが、然も其の中には言者罪無く聽者戒むるに足るものが少くない。

大阪毎日論説委員
硯瀧欄執筆
丸山幹治著
送料
〇・一五〇

長谷川如是閑氏評——丸山侃堂は今「大毎」の「硯瀧」に隠れて、自から「槍一筋新聞界の老兵」と稱してゐる異数の存在である。これが所謂「元老」記者の多くと異る點はその觀察がよく時代と共に流動していつも「現在」を反映させてゐることである。

大阪時事論説委員
吉安碧夫著
送料
〇・一五〇

淀みに浮ぶうたかたは且つ消え且つ結んで一時も止らず、去來、紅塵社會の煩瑣なることも亦言を俟たぬ。著者は記者として珍らしい體驗を有しその特異なる性格と多邊の學識は、社會を論じ、人生を語るにも常に一步を先んじ、然も態度は凡人に終始してゐる處正に無門亭道人と云へよう。

大阪毎日相談役
夕刊大阪主幹
福良竹亭著
送料
〇・一五〇

目まぐるしい機械文明が現代人の心に培付けたものはたゞ疲勞だ深刻なマイナスだ、社會不安と人生苦の増幅。此の間に在つて若し世の人々の凡てに限りない慰安と澆潤たる強壯劑を提供するものがあるとしたらそれは竹亭主人著すところの本書であらう。

大阪毎日論説委員
硯瀧欄執筆
丸山幹治著
送料
〇・一五〇

新聞界の老兵と自稱する著者はすでに黒頭巾を脱いだ。世の中の底の底まで見透し來つた著者の赤裸々な傍若無人的な自由性を發揮したこの一巻は、妙くとも今の御時勢を懇陶しく感ずる者にとつて溜飲を下げてくれるのみならず活きた歴史を教へてくれる。

早稻田大學講師 嶋田青峰著
「家の光」マナージャー 馬場光三著
送料
〇・一五〇

萎靡沈滞してゐた明治の俳句界に突如として反旗を擧げた正岡子規は革新の大事業を成就して去つた。その子規が遺した新しい俳句風が如何に推移變遷して行つたかを詳にし併せて尾崎紅葉、齋藤綠雨の俳句を子規との交渉連關の下に研究、蘊蓄を傾けたのが本書である。
四六判三二〇頁上製 新刊 定價壹圓五十錢 送料十錢

「家の光」マナージャー 馬場光三著
送料
〇・一五〇

雑誌は新聞と單行本との間にあつて最も親み易い機關である。そこに雑誌の近代性があり個性生命力がある。本書は雑誌の人生に對する交渉を説き其効用を明にし様々の點から觀察記述した我國最初の雑誌研究書である。
四六判二一〇頁フランス製本 新刊 定價八十錢 送料六錢

童話研究主幹 蘆谷重常著
送料
〇・一五〇

開巻童話の語義概念を明詳にし童話が次で發生し發達し分化し類型を生じた徑路を訪ね今まで顧られなかつた童話を學問として一つの體系に纏上げたのが本書である。童話を本質的に文化史的に學ばうとする者の必讀すべき好著である。
四六判三二〇頁上製 新刊 定價壹圓五十錢 送料十錢

和歌研究家 横尾 豊著
送料
〇・一五〇

「古今」の歌人が花月風流の雅懐を正叙したに對し「新古今」の歌人は曲情を曲折した。それ文眞義を捕捉するに苦しむ。本書は之に對し周到な合理的解釋を下しその時代を説明して近視眼流に眼鏡を兵へて怪物名歌の正體を見極める方法を教へたものである。
四六判三〇〇頁上製 新刊 定價壹圓二十錢 送料十錢

日本文學研究會編
送料
〇・一五〇

古事記の幼稚な歌謡に出發した日本文學を今日の水準にまで盛上げて來た歌人俳人小説家其他幾千の人々をその事業と時代及び凡ゆる方面より研究簡明な解説を施し五十音圖に排列してあるから文學に關心ある者は是非一冊は具へておくべき辭書である。
四六判三五〇頁上製 未刊 定價壹圓五十錢 送料十錢

日本文學研究會編
送料
〇・一五〇

古事記の幼稚な歌謡に出發した日本文學を今日の水準にまで盛上げて來た歌人俳人小説家其他幾千の人々をその事業と時代及び凡ゆる方面より研究簡明な解説を施し五十音圖に排列してあるから文學に關心ある者は是非一冊は具へておくべき辭書である。
四六判三五〇頁上製 未刊 定價壹圓五十錢 送料十錢

文學博士 遠藤隆吉著
易學入門

易は支那に於ける哲學的處世道德的の經典であつて之を讀まざる者は宰相の器たるべからずと云はれた。之を實際に應用し得る事は其の域に達する方易學の漸く熾んたる時博士の本著は正に斯道研究の最高指針となるであらう。 菊判六〇〇頁 定價參圓五拾錢 送料十六錢

鈴木亨齋著
手相講義錄

本書が有るに於ては、手相の秘訣を講義録的に編纂し、提供せんとして、たゞの修業の上試みに通つた會員には職業上の保障せんとして、唯の趣味として信じて道に入れる良書である。 四六判全四卷 第一卷五拾錢 第二、第三、第四卷各三十錢

口村靈山著
運命の創造

人間の運命は先天的で影響されるが、より多く後天性に支配される。運命は絶對でなければならぬが、運命は造化神の絶對物でない。本書は、運命の積極的な運命觀の把握によつてのみ打開される。命觀の創造は、宿命論的誤解を排し、從來の運命觀を一掃して新運命觀の創造に資せんとするものである。 四六判 三〇〇頁 定價六拾錢 送料十錢

佐久間貞次郎著
回教解説

回教は他の二大宗教に對する研究が熾烈であるに比して餘りにも少々たる感じがあつた。著者は之を遺憾とし、先づ回教とは何であるかを説明した。後、史的考察より教義の解説に論を進め、回教徒の支那の開始を論ずる。又、支那の回教の眞體は本書を待つて始めて理解される。 四六判 三〇〇頁 定價壹圓貳拾錢 送料十錢

開基研究會編
圍碁入門から初段まで

圍碁の心得は現代では一種の外交常識となつてゐる。本書は布石の法から全圍碁の分りぬ人でも極めて容易に面白く入門することがある。詳細に述べられてゐる。 四六判 一五〇頁 定價壹圓貳拾錢 送料十錢

蘆谷蘆村著
妬婦傳

本書は妬婦傳とその女夫黨たる妬夫傳から成つてゐる。登場人物は古今東西の歴史の上の大立物。夫等の如何に於ける暴風雨の生活の顛末に依つて別決した男女裏面生活の貴重なやまもちの研究書である。 四六判 三五〇頁 定價壹圓五〇錢 送料一〇錢

三浦義臣譯
支那封神傳

支那の古代に生じた数々の奇怪な事象は、東洋各國に多くの傳説や神話の種を蒔いた。本書は此の神秘幻想の支那古代に於ける三つの人物、酒池肉林の宴、醉ふ殷の紂王と人血を吸ふ妖精姫と、彼の等々を討つて民苦を救つた周の武王の争闘史を、刻明に描出した名作である。 四六判 三五〇頁 定價壹圓五〇錢 送料一〇錢

ヘゲデウス作 角岡知良譯
戯曲殺人犯

「殺人犯」はハンガリーの大文豪ヘゲデウスの大作で、作風には東洋殊に日本の古典藝術と一脉相通するものがある。譯者は亦ヘゲデウス及びその國情を最もよく理解した人、或は原作以上の藝術的生命を吾人の胸に躍動させてくれるであらう。 四六判 二五〇頁 定價壹圓 送料六錢

豊島與志雄著
創作集道化役

収録された創作「道化役」以下「女客一週間」「千代次」の驚き「別れの辭」等十餘篇は、數ある氏の創作中、最も不朽の名篇に屬するが、而も其等が自らの長篇を構成してゐる。又「樵の木」は之等と同一き方を異にした香り高き逸品で、共に佛蘭西文學の流を汲む氏の面目を現して遺憾がない。 四六判 三五〇頁 定價壹圓 送料一〇錢

大井 廣著
歌集悲心抄

若くして其閃きを誦はれたる天才歌人が、今や人の子の親となつて、その作風に如何なる進展を見せたか、いとし兒の天折に直面して、快慟を續けた作者の悲心は、やがてその詩囊の淵熱を助け、喉木以上であらう。 四六判 三〇〇頁 定價壹圓五〇錢 送料一〇錢

文學博士 遠藤隆吉著
易學入門

易は支那に於ける哲學的處世道的の經典であつて之を讀まざる者は宰相の器たるべからずと云はれた。之を實際に應用しざる者は在の域に達する方れば妙味津々として盡きず又豫を決心し志を固く究る事が最高指針となるであらう。菊判六〇〇頁 定價參圓五拾錢 送料十六錢

鈴木亨齋著
手相講義錄

本書がありふれた易書と異なる所は林洸宗家第二世たる著書が今もたも一般に發表しなかつた奥傳秘書を講義録的に編纂し提供せんとしたもので、之を修了の上試験に通つた會員には職業上の保障を約束する。又唯の趣味として信じて道に入れる良書である。四六判全四卷 第一卷五拾錢 第二、第三、第四卷各三十錢

口村靈山著
運命の創造

人間の運命は先天性で影響されるがより多く後天性に支配される。運命は絶對唯一でなければならぬが運命は造化神の絶對物でない。本書は兎角宿命論的の誤解を排し、運命の把握によつてのみ打開され命觀の創造に資せんとするものである。四六判 三〇〇頁 定價六拾錢 送料十錢

佐久間貞次郎著
回教解説

回教は他の二大宗教に對する研究が熾烈であるに比して餘りにも少々たる感じがあつた。著者は之を遺棄とし先づ回教とは何であるか、を説明した。史的考察より教義の解説に論を進め回教の支那滿洲を蒙古における他宗徒との交渉を論ずる等回教の眞髓は本書を待つて始めて理解される。四六判 三〇〇頁 定價圓貳拾錢 送料十錢

關碁研究會編
圍碁入門から初段まで

圍碁の心得は現代では一種の外交常識となつてゐる。本書は布石があるから作戦上の虚々實々に至るまで圖解入りである。本書は布石詳細に述べられ、進んで有段者たらんとする人には段取りの表裏秘訣が四六判 一五〇頁圖入 第三版 特價六十錢 送料六錢

北村佳逸著
儒教哲學解説

支配者の威力に依る霸道政治を斥け、帝堯の王道政治を提唱したのが孔子の遺教である。著者は我國儒教研究に於ては正統の著者たる著者が多年研究の結晶で、江湖の諸賢に必應出来る好著である。菊判 三〇〇頁上製 新刊 定價貳圓 送料十錢

北村佳逸著
孔子教とその反對者

孔子は在世當時已に三千の弟子に圍繞され、没後其説の爲に苦闘した儒教徒の眞實さは恐らく佛教徒や基督教徒の以上のものがある。然し孔子の存在が偉大であるだけに其の影も亦大きい物があつた。影とは？それは孔子教の反對者の謂である。菊判三〇〇頁上製 新刊 定價壹圓五拾錢 送料十錢

松本君平著
靈命觀

本書は宇宙の根源たる靈命に就て著者半生の體驗に基づく、深き哲學觀より刻出されたものであつて、其透徹したる頭腦と固き信念は人間の本質、生命の實相、宇宙觀の把握等に關しても既成宗教の迷妄を排し現代人の心奥に徹底した世界觀を與へずには措かないものである。四六判 二二〇頁上製 新刊 定價壹圓 送料十錢

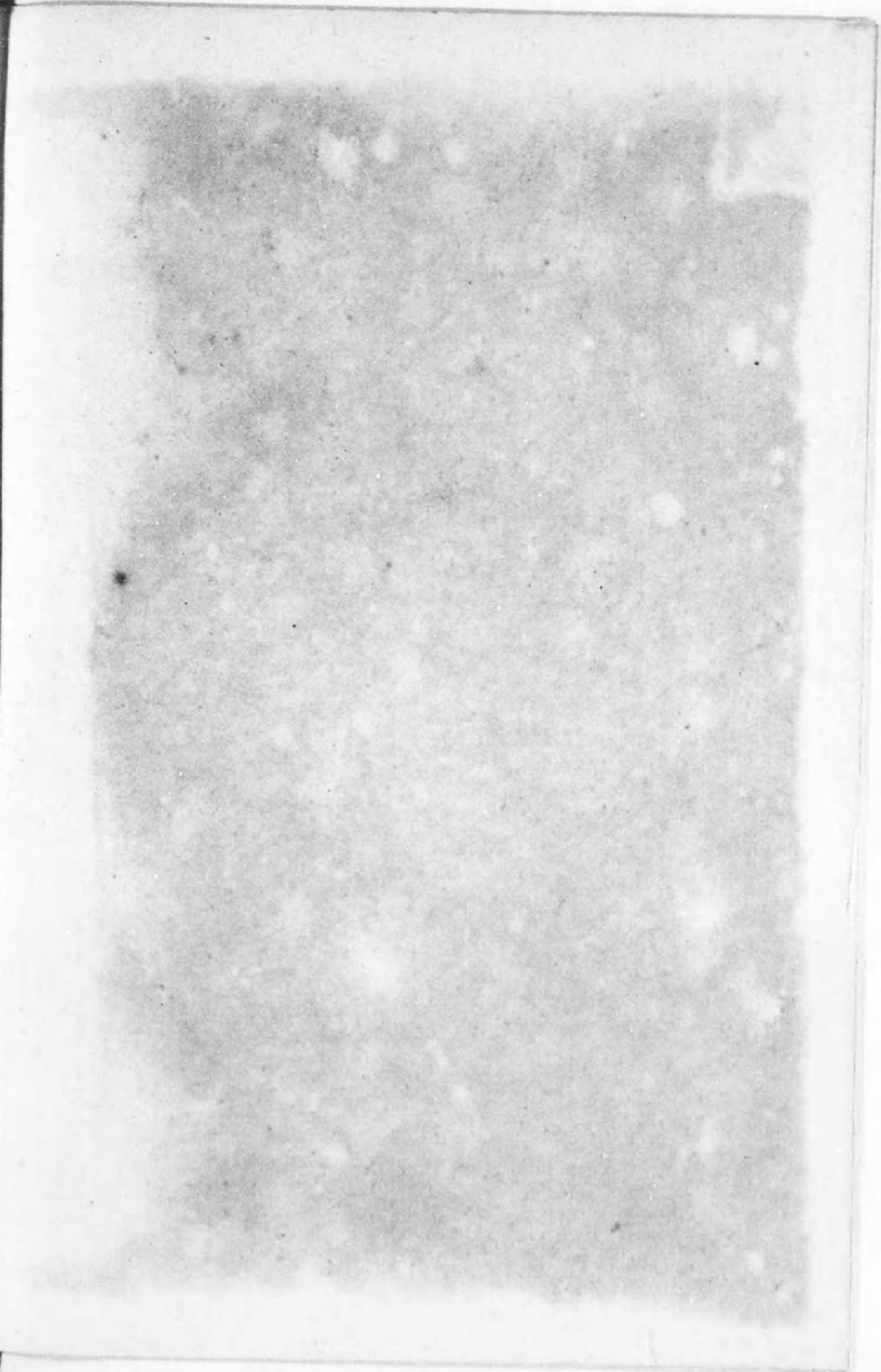
丸岡英夫著
武士道教本

これあるが爲に今日の日本を成した大和魂——武士道精神の發揚に花と散つた先哲師賢の言行録を收め之に體系を與へて其傳記と時代とを解説したのが本書である。收錄氏名——山鹿素行、室鳩巢、齋藤拙堂、大道寺友山、吉田松陰、眞木保臣、橋本景岳、平泉澄(文學博士)等 四六判 三〇〇頁美本 新刊 特價八拾錢 送料十錢

丸岡英夫著
日本婦道の眞諦

武士道精神は男子の占有物ではない。男子をしてその精華を發揮せしめた裏には必ず賢母があり良妻があつた。本書の第一編は編纂となつた女性の逸話を時代順に集め第二編は其等女性が精神修養の糧とした教訓書の原文に註釋を加へたもので武士道讀本の姉妹編である。四六判 三〇〇頁美本 新刊 定價八拾錢 送料十錢

351
954



終

